

5万分の1地質図幅「^{ともち}砥用」のトピックス(1)

＜斎藤 眞・宮崎 一博・利光 誠一・星住 英夫＞



1. 砥用図幅西部から産出したひすい輝石脈。砥用図幅作成後の研究で発見。砥用図幅では、ひすい輝石を構成鉱物として含む変はんれい岩を記載したが、肉眼で認識できるものは見つかっていなかった。日本での新たなひすいの産出地域の報告は18年ぶりとなる。八代市泉(旧八代郡泉村)西部。(日本地質学会第112年学術大会(京都)で報道発表, 講演, 斎藤・宮崎, 2005).



2. 上部デボン系山出層から産出した鱗木化石。倍率の記載のないものは原寸大。
 左) *Leptophloeum rhombicum* Dawson
 GSJ F16107. 雄型, 矢印は葉痕 (leaf scar)
 中) *Leptophloeum rhombicum* Dawson
 GSJ F16110. 雄型
 右) *Leptophloeum cf. rhombicum* Dawson
 GSJ F16100. 雌型
 同種は菱形模様の中に葉痕があるのが特徴。
 (順に斎藤ほか(2003)第3図1, 5, 7)
 下益城郡美里町(旧砥用町)山出。



3. 透輝石(異剥石)の巨晶からなる輝岩試料。岩石試料登録番号GSJ R78098, 鉱物標本番号GSJ M36481の一部。八代市泉(旧泉村)氷川ダム東方。数cmの結晶からなる粗粒部。(斎藤ほか, 2004)。

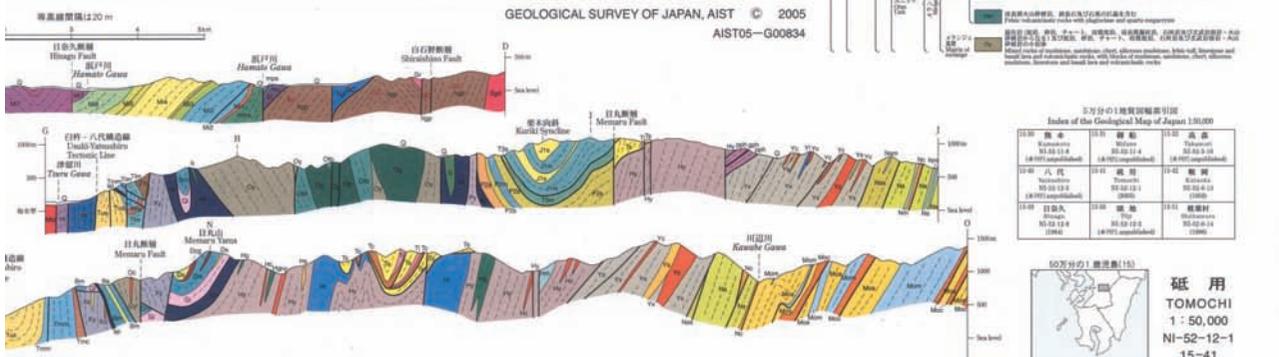
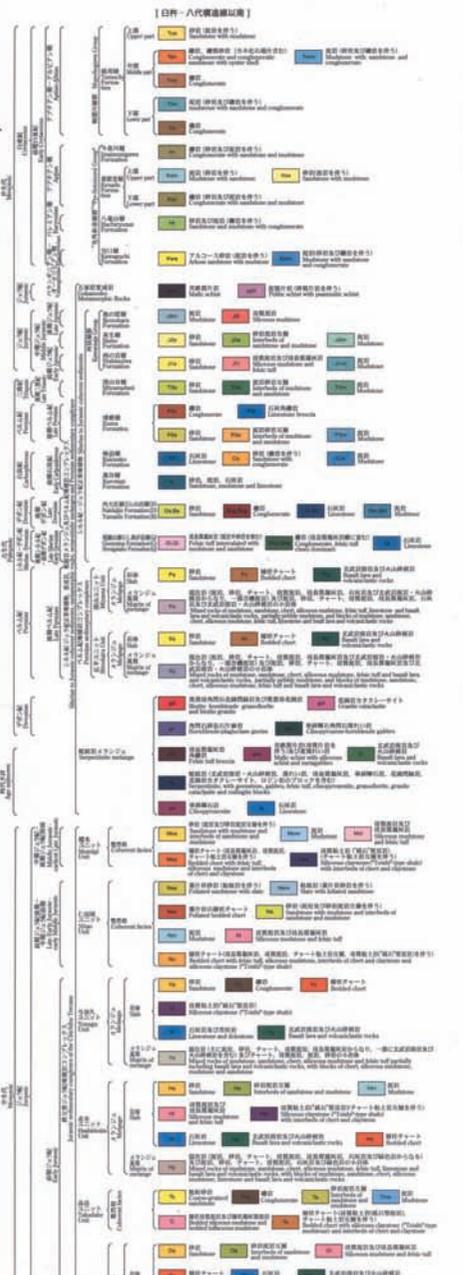
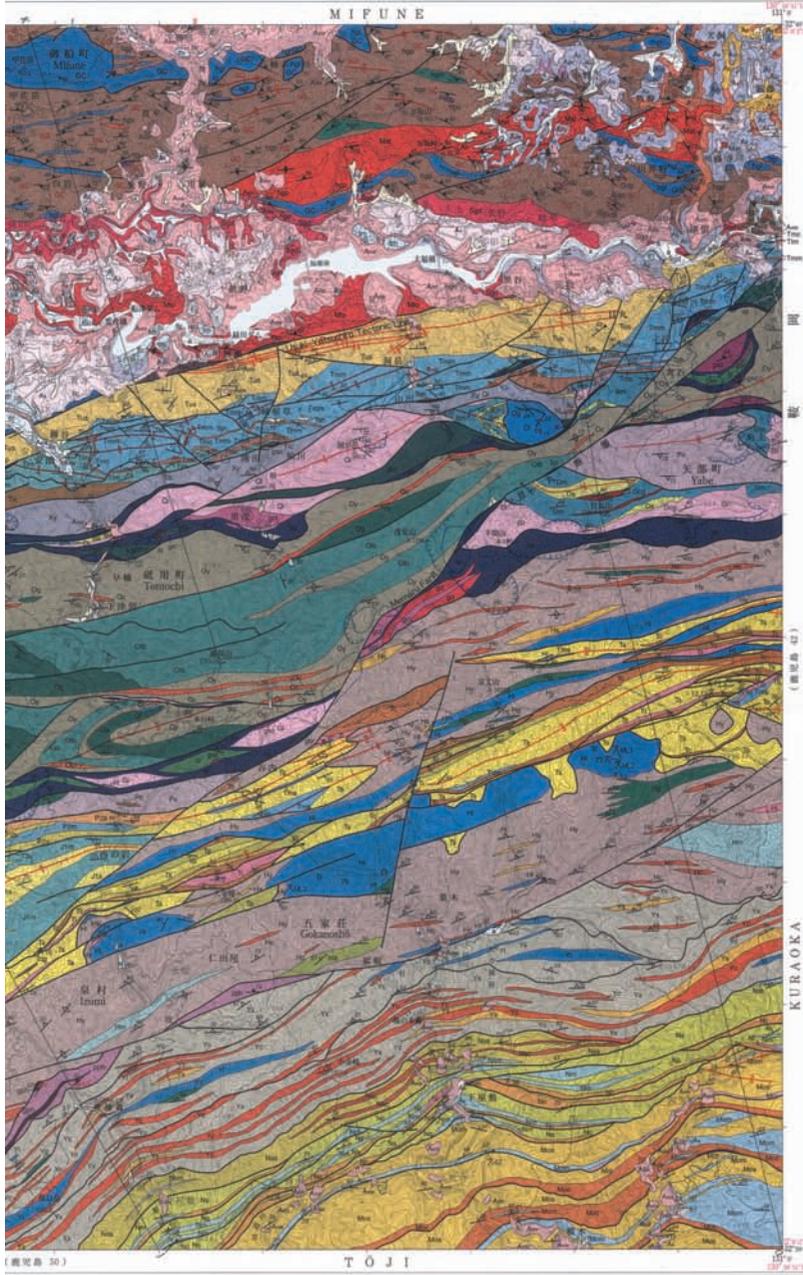
TOMOCHI

Geological survey by Makoto SATO, Kazuhiko MIZUJIMA, Seizichiro TOYOSHITA, and Hideo HOSHIZUMI in 1994-2003

主要目録

BIBLIOGRAPHIC REFERENCE

巻頭 巻一 巻二 巻三 巻四 巻五 巻六 巻七 巻八 巻九 巻十 巻十一 巻十二 巻十三 巻十四 巻十五 巻十六 巻十七 巻十八 巻十九 巻二十 巻二十一 巻二十二 巻二十三 巻二十四 巻二十五 巻二十六 巻二十七 巻二十八 巻二十九 巻三十 巻三十一 巻三十二 巻三十三 巻三十四 巻三十五 巻三十六 巻三十七 巻三十八 巻三十九 巻四十 巻四十一 巻四十二 巻四十三 巻四十四 巻四十五 巻四十六 巻四十七 巻四十八 巻四十九 巻五十 巻五十一 巻五十二 巻五十三 巻五十四 巻五十五 巻五十六 巻五十七 巻五十八 巻五十九 巻六十 巻六十一 巻六十二 巻六十三 巻六十四 巻六十五 巻六十六 巻六十七 巻六十八 巻六十九 巻七十 巻七十一 巻七十二 巻七十三 巻七十四 巻七十五 巻七十六 巻七十七 巻七十八 巻七十九 巻八十 巻八十一 巻八十二 巻八十三 巻八十四 巻八十五 巻八十六 巻八十七 巻八十八 巻八十九 巻九十 巻九十一 巻九十二 巻九十三 巻九十四 巻九十五 巻九十六 巻九十七 巻九十八 巻九十九 巻百



紙用
TOMOCHI
1 : 50,000
NI-52-12-1
15-41

GEOLOGICAL SURVEY OF JAPAN, AIST © 2005
AIST05-G00834